

北海道教育委員会では、北海道におけるがん教育の充実を図るため、がん教育推進校を指定し、地域や子どもの実態を踏まえ、新学習指導要領に基づいたがん教育への取り組みを推進し、その成果を全道に発信するとともに、すべての学校においてがん教育が充実することを目的に、実践研究等を行っています。

本冊子は、令和3年度のがん教育推進校の実践等をまとめたものです。

今後、各学校におけるがん教育の一助として本実践事例を御活用いただき、北海道内のすべての学校においてがん教育の取組が充実することを願っております。

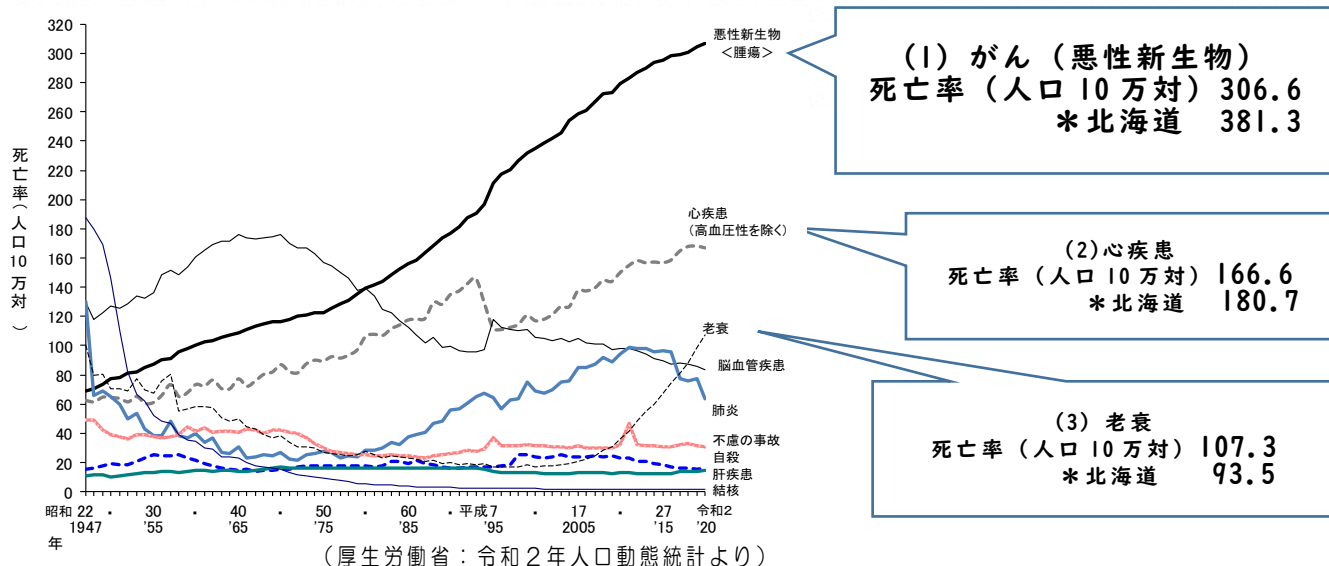
【目次】

1	がん（悪性新生物）を取り巻く現状と課題	1
2	学校におけるがん教育の目標や内容等	2
3	がん教育の実施による生徒の変容	3
4	がん教育推進校における実践の概要		
	■ 函館市立深堀中学校	4
	■ 北海道松前高等学校	6
参考資料	がん教育推進のための教材	8

1 がん（悪性新生物）を取り巻く現状と課題

(1) 死因別にみた死亡率の年次推移（全国）

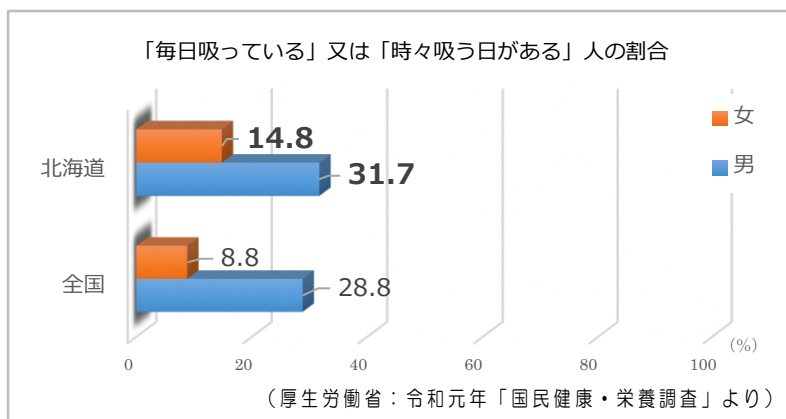
厚生労働省が公表している「令和2年（2020）人口動態統計」では、**がん**（悪性新生物）は一貫して**増加**しており、昭和56年以降死因順位の第1位となっています。



(2) 喫煙率

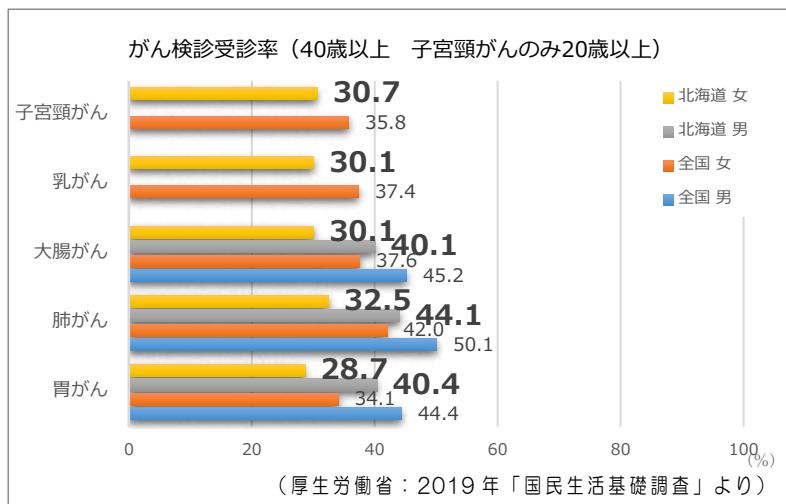
「がん」の原因には、喫煙(受動喫煙を含む)、食生活、運動等の生活習慣、ウイルスや細菌への感染など様々なものがあります。

本道の喫煙率は、全国と比べ、依然として高い水準にあります。



(3) がん検診受診率

「がん」は、検診の実施により早期に発見することができ、適切な治療を行うことで、「がん」による死亡者数を減少させることが可能です。しかし、**本道のがん検診受診率は、全国と比べて低い状況**となっています。



【北海道の課題】

- がんは、死因の第1位であり、全体の30.4%（全国27.6%）を占めている。
- 喫煙率が、男性で31.7%（全国第8位）、女性で14.8%（全国第1位）である。
- がん検診受診率は、胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮がんの各検診において男女とも、全国より低い受診率である。

2 学校におけるがん教育の目標や内容等

がん教育の定義

がん教育は、健康教育の一環として、**がんについての正しい理解**と、がん患者や家族などの**がんと向き合う人々に対する共感的な理解**を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、**共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育**である。

がん教育の目標

① **がんについて正しく理解することができるようにする。**

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心を持ち、**正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成**する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

② **健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。**

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れあうことを通じて、**自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりをめざす態度を育てる。**

がん教育の具体的な内容

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 がんという病気 | 6 がんの治療法 |
| 2 我が国におけるがんの現状 | 7 がん治療における緩和ケア |
| 3 がんの経過と様々ながんの種類 | 8 がん患者の「生活の質」 |
| 4 がんの予防 | 9 がん患者への理解と共生 |
| 5 がんの早期発見とがん検診 | |

【内容の取扱い】

- それぞれの内容を関連付けて、一次予防（生活習慣の改善等）、二次予防（がん検診等）について理解できるようにする。
- 現在及び将来に直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようにする。
- がん教育の二つの目標を達成するために、がんを通して健康や命のかけがえのなさに気付き、がん患者やその家族など、がんと向き合う人々の取組に関心をもつとともに、健康な社会の実現に努めることができるように留意する。

3 がん教育の実施による生徒の変容

令和3年度がん教育推進校の生徒を対象とした事業の実施前後のアンケートの結果から、

- ・がんの学習は、健康な生活を送るために重要だと思う
- ・がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う
- ・食事や運動を意識し、健康な体づくりに取り組もうと思う
- ・がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う

などと回答した生徒の割合が増加したことから、がん教育を通して多くの生徒が「がん」についての理解を深め、健康と命の大切さに気付くとともに、自己の生き方を考えるきっかけになったと考えられる。

